



認定NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la

シャングリラ



ヒマラヤ保全協会 2017年度総会



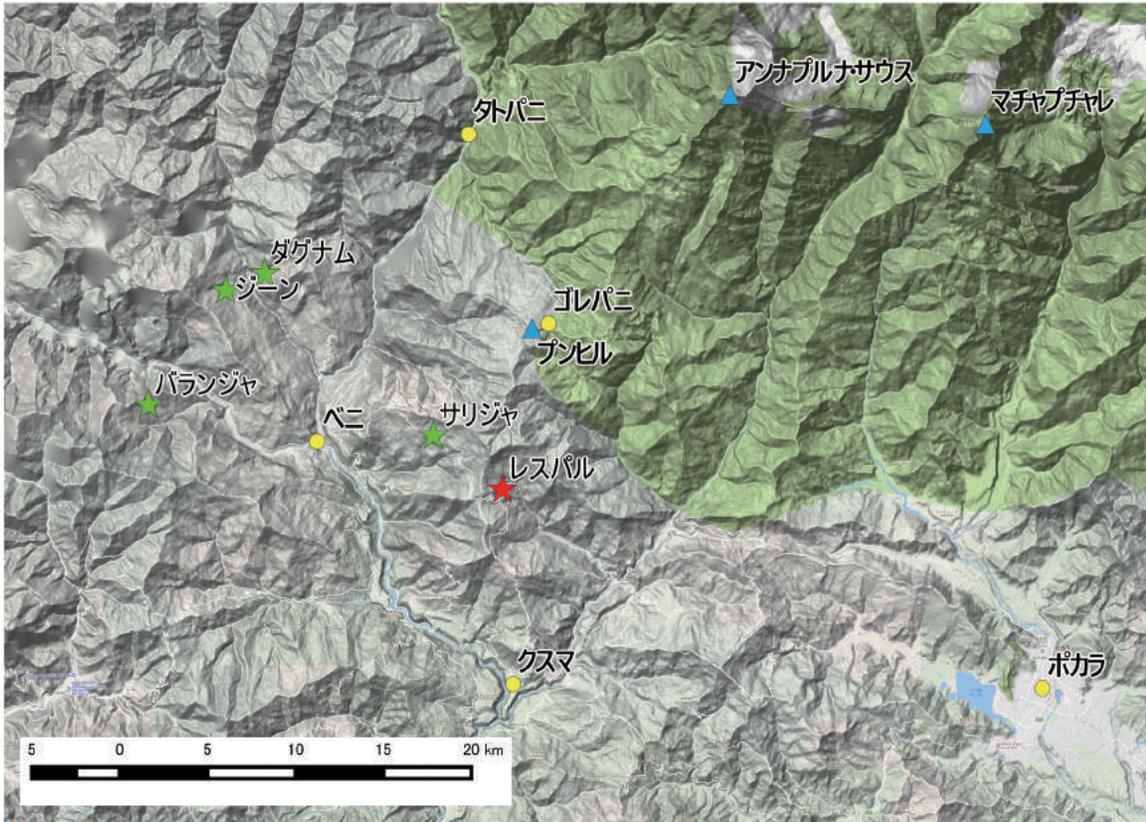
100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

植 林 事 業

理事 佐久間雅俊

レスパル村で植林事業が始まりました！



赤星…レスパル
緑星…今までの植林事業地
ポカラが右下に位置しています。



新しい植林事業地としてレスパル村が加わりました。ヒマラヤ保全協会はこれまでポカラから北西にあたるシーカ谷などがあるアンナプルナ地域（カリガンダキ溪谷東岸）、そしてこの数年間はダグナム、ジーン、バランジャといったダウラギリ地域（同西岸）で植林事業を展開してきました。レスパル村は東側のアンナプルナ地域にあたります。ポカラからアンナプルナ山域を周遊するトレッキングルート上の名所として有名な峠プンヒルやゴレパニに近く、標高2000メートルの山岳地帯にある人口約250人のマガル族の村です。

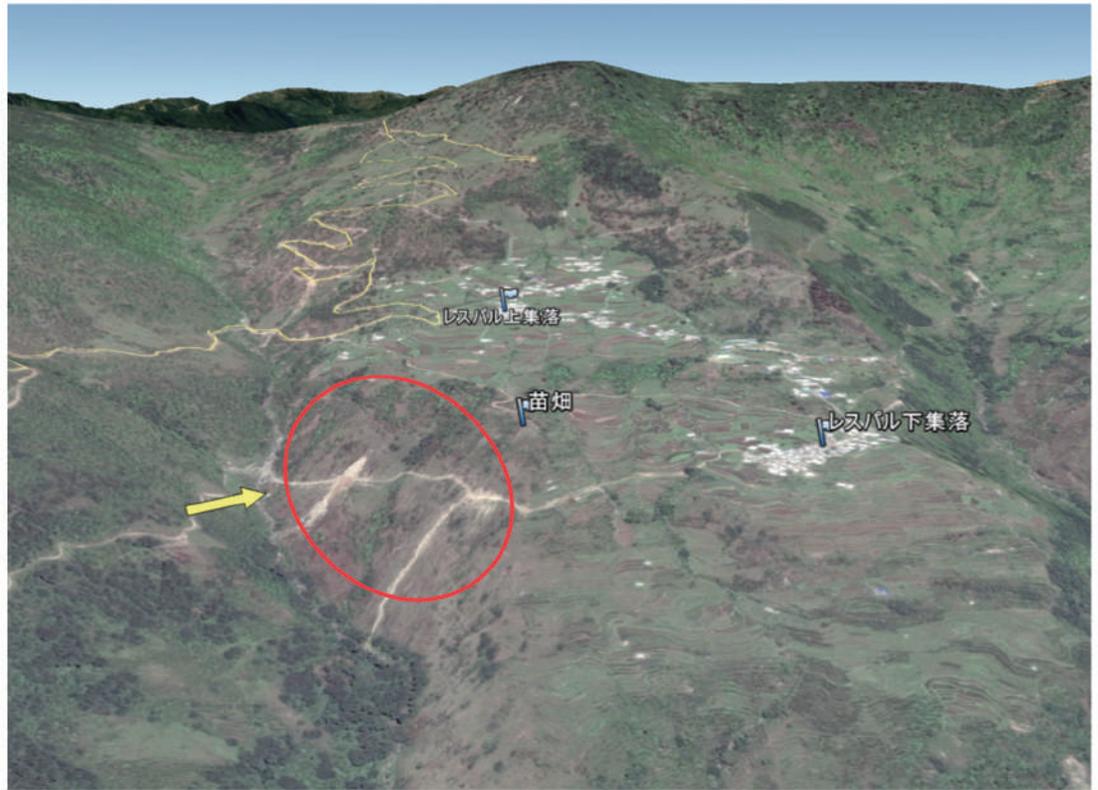
周囲は険しい谷に囲まれ、その中にあるなだらかな斜面の上にへばりつくように村の家々が建っています。同じ村でも集落は主に上下二つに分かれており、植林をするための苗を育てる苗畑は二つの集落のほど近くにある崖の上に作られました。（右ページ上図）



↑上図の矢印の方向からみた裸地の崖の様子

どこにどんな木を植えるの？

苗畑の直下の急斜面の崖（図内の赤枠部分）には草と少々の灌木は生えてはいるもののほぼ裸地となっており、年々に崩れている場所もあるため、村人たちはまずここに松の木を植えて保全し、その上にある農耕地や建物、集落を守ろうと計画を立てています。



また、このレスバル村にはニマロ（イチジク的一种）という特産物があります。ニマロは主に家畜の飼料とするほか、人が食べても甘くて美味しいとのこと。もともとネパール産の果物ではありますが、周辺の村にはあまり植えられておらず、これをレスバル村内の各所で育てるとともに、他村へ販売することで貴重な現金収入とする予定です。



ニマロの木と実
(四月末撮影、まだ熟す季節ではないため青い)

今年の植樹本数の目標は、松が2000～2500本、ニマロが500～1000本、全体で3000本としています。

来年度以降は薬用となる樹種を植えて同様に村内で利用および村外に販売することも考えています。

村の周囲には裸地の崖もありますが、その他にも木々が生い茂っている山の斜面もたくさんありました。しかし、現地カウンターパートNGOであるIHCネパールのチトラさんによるとこれらの斜面の木々は現地住民にとって有用でなく、いずれはもっと有用な樹種に植え替えたいとの希望があるとのこと。このような植林地域と樹種の選択に関しては、環境保護と住民の生活の質の向上のバランスを考えながら、今後検討していく問題です。



↑裸地（手前）と周囲の森（奥）

どうしてレスパル村で植林をすることになったの？



↑苗畑にて 筆者（左端）とIHCネパールスタッフ・ルケシュ氏（左三番目）と苗畑委員会・村の人々（中央：苗畑管理人ティル・バハドウル氏、右三番目：委員長ダン・バハドウル氏、右端：委員ナラシン氏）

私達IHCはこれまでたくさんの村で苗畑を作り、現地住民の植林を支援してきました。その中に現在も支援中であるダウラギリ地域のジーン村があります。レスパル村のナラシンさんという方がこのIHCの活動を聞きつけ、ジーン村を訪問してそこでIHCネパールのスタッフにレスパルでの植林活動の支援をお願いしたというのが出会いでした。

これまでの活動の中で周辺の村々でIHCの活動の噂は広まっていて、

それが新たな活動の場所を見つける助けになるというのはとてもありがたいことです。私は今回レスパル村を訪問し、村の植林委員会の一員であるこのナラシンさんをはじめ、委員長のダン・バハドウルさん、苗畑管理人のティル・バハドウルさんにもお会いし、苗畑作成・植林の支援についてのお礼の言葉をいただき、たいへん丁寧に迎えてくださいました。このような地域の人々の信用を大事にしていこうと気持ちを新たにす良い機会となりました。



苗畑は急斜面の上にある



松の苗

レスパル村へいらっしゃいませ

レスパル村はアンナプルナ周遊トレッキングのメインコースから外れてはいますが、サブコースとしてトレイルは通っており、ごくたまに外国人トレkkerが村を訪れるとのこと。それに対応するためか、村唯一の宿泊施設は山奥の村としてはきれいなものでした。トレッキングに興味のある方は、当会の事業の視察がてら訪れてみてはいかがでしょうか？ きっと村の人々の笑顔にも出会えますよ！



IHCネパールのチトラ氏とルケシュ氏（村の宿にて）



村内を歩くチトラ氏とルケシュ氏



国内活動

総会の報告



2017年6月17日(日)モンベルクラブ渋谷店の5階サロンにて2017年度ヒマラヤ保全協会会員総会が行われました。

今年はジーン村、バランジャ村に加えて、新規でレスパル村の植林事業を開始、また非材木林産物活用プロジェクトとしてヒマラヤイラクサ活用可能性の調査を論文にまとめる計画です。

地震の影響で休止していた山岳エコロジーツアーの再開し、国内事業としては日本の山岳地方が直面している問題等を調査し、当協会がの経験と成果を活かした活動を進めて参ります。

今年は理事の改選があり、新しい会長が就任いたしました。新体制となったヒマラヤ保全協会を今後ともどうぞよろしくお願いいたします！

(会員の皆様は、同封の議案書をご覧ください。)



旧会長・新会長からのご挨拶

旧会長 渡邊敏雄



ヒマラヤ保全協会は、故川喜田二郎氏が創設、40年以上にわたる歴史を持ったNPO法人です。

ネパールにおける植林活動が中心ですが、現地の人々の要望を丁寧に掘り起こし、地域に密着しての支援が特徴です。

会長としては2年半ほどの短い期間でした。この間ネパール大地震や、NPOの運営上のさまざまな出来事などがあり、私にとって忘れられない時間となっています。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、私の人生の歴史に新たな一ページが加わったと感じています。

今後は一会員として会の発展に協力してまいります。ありがとうございました。

新会長 相馬拓也



この度、ヒマラヤ保全協会の新会長となりました相馬拓也と申します。

私は16歳の時に、中国内モンゴル自治区オールドス砂漠に緑化活動に携わったことをきっかけとして、植林や環境保全に強い関心を持つようになりました。

私はフィールドサイエンスの手法を用いた臨地での実証的な研究活動を専門としております。これまで、モンゴル、中国、キルギス、ドイツの農村地帯などで仕事をする課程で、人と環境、人と動物の文化的・自然的な相互依存の繋がりを数多く目にしてきました。

森林や自然環境がもたらす資源は人類の発展にとってかけがえない財産としてこれからますます重要となるでしょう。

ヒマラヤ保全協会は40年以上の歴史を持ちます。これまでの会の活動を専門分野の地理学および保全生態学などのアカデミックな視点と手法で今後とも会の発展に寄与したいと思います。

イベント 報告☆



特別講演「日本全国スギダラケ倶楽部」若杉浩一さん



若杉浩一さん

6月17日、総会前の特別講演では、パワープレイス株式会社の企業デザイナーとしてご活躍されている若杉さんに生い立ちから「日本全国スギダラケ倶楽部」の活動まで熱い講演をして頂きました！

企業デザイナーとしての発信力

利益を追求するだけの企業で違和感を感じつつも、「企業デザイナー側でできることがある！」と先輩方に背中を押され、考え抜く中で、2002年に「スギダラプロジェクト…『戦後の植林によって杉だらけになってしまった日本の山林を、産地や加工者、流通、デザイン、販売などを結びつけることで、杉をもっと積極的に使っていかうじゃないか！』という運動（日本全国スギダラケ倶楽部HPより）』を開始しました。



杉で作られたギフト
SUGIFT



病室内に杉を利用
無機質な病室に温もり



宮崎県日向市駅の
駅舎をすぎ化



宮崎空港の荷物検査所
に杉を利用



東京四ッ谷、おもちゃ美術館の
木育ひろば、ショッピングモール
などでも展開

新しい豊かさを創造するためのデザイン

「いにしえ貧しいは生きていたが、現代の貧しいは死を意味する。」これは近代工業化社会の中で日本人が培って来た集団で生きる知恵が引き継がれて来なかったことが原因の一つ。

子供たちの未来に負の資産を残すのか、それとも豊かな未来を渡すかを考えなくてはならない。今までのテクノロジーも取り入れつつ、森と水、木と暮らし、つまり自然とともに豊かにくらす新しい豊かさを創造していくことが必要だと、若杉さんは語ります。

「愛の押し売り TOO MUCH!」余計なことかもしれないけれど、気付いた人がどんどん動く、そして幸せを繋いでいく、若杉さんの活動には衝撃に近い、感動がありました。

本当に若杉さんありがとうございました！！

地方の魅力を引き出して問題解決！

宮崎県日向市駅の駅舎は地元宮崎県産杉材を用いた木造デザインで、企業・行政・市民たちが協力し10年間の時を経て建築されました。市民を巻き込んだことによって、みんなの「えき」と認識され、多くの市民が駅に集い、経済の活性化も産まれることになりました。駅舎を建築する中で、地域の魅力が引き出され、駅舎を作った企業は地域共に、支え合って生きる「社会の一員」になることができたと言います。この事例に関わらず、企業として日本全国で杉を利用した地域活性化や社会貢献の輪を広げています！



ヒマラヤ保全協会として

若杉さんのように、一企業人として、デザイナーとして、そして市民として日本の地方が抱えている問題を縁をつなぐデザインで解決する姿から本当に多くのことを教えて頂きました。

ヒマラヤ保全協会としても国内事業として日本の地方が抱えている問題を研究し、国内事業として本協会の経験を活かす可能性について研究してまいります！

(文責：清田)

事務局 だより

イベント・ボランティア募集情報

ぜひぜひご参加下さ〜い♪ ↓ 昨年の様子

9月30日(土)、10月1日(日)

グローバルフェスタ出展します！
活動紹介や物販のお手伝いの
ボランティア募集しています！
今年も「ネパール手すき紙の
封筒作りワークショップ！」
を開催します☆



10月7日(土)、8日(日)

交流山登りイベント
「みんなでパハール in 吉野山！(仮)」
奈良に1泊し、翌日吉野山へ
参ります！



10月14日(土)(予定)

会報100号発送作業

詳しくは、下記の
メールアドレスまで

寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!
1口 3,000円から何口でも結構です。
下記の振込み先にご送金ください。

マンスリーサポーターになる

毎月 1,000円 からマンスリーサポーターに
なることができます。マンスリーサポーターの
皆様には、「活動報告書&計画書」年1回)
をお送りします。

会員になる

年会費：個人会員 5,000円・団体会員 30,000円
会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの
会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

- みずほ銀行新宿南口支店
普通2005209
認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会
- 郵便振替
00100-0-709154
ヒマラヤ保全協会

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、
ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailに
てご連絡ください。
※国税庁より「認定NPO法人」として認可
されておりますので、皆様からのご寄付
は、税法上の特例措置の対象となります。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第99号 2017年8月5日発行 編集・発行 認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス9号館 8階 808号室
TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>